



環境にやさしい防草材の調査研究 中山間地の高齢者を救う！ぞ

助成区分	植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙
------	----	------	-------	-------

実施状況

2～4回/月(調査)実施

調査期間4月～10月

活動の全体目標に対する達成度

70%

課題

高齢化が進む中山間地では、景観保全に苦勞している。農業離れによる耕作放棄地の増大、高齢化による草刈り作業員の絶対数の減少など、今までと同じ方法では美しい里山風景を保全が出来なくなり大きな社会問題となって来ています。

活動内容

自然にあるものを活用し防草の役割を果たし、景観保全につながる研究を実施したい。

【材料】もみ殻、環境にやさしいボンド

【調査】もみ殻(もみ殻炭)とボンドを練り合わせた防草材を農地などの草刈の必要な場所(平坦、斜面)に敷きならす。

5m×5mを1区画とし3区画に敷きならす。

防草材を5cm(除草あり)、5cm(除草なし)、10cm(除草なし)

植物への影響も調査するため、区画を中心に植生を行い成長の度合いや影響を調査する。

被覆性植物の他、多年生植物に防草材を敷設し植物への影響も調査する。

成果

週4回以上の目視と、月に2～4回以上の調査を行った。

調査の結果、次の事が分かって来た。

- ・もみ殻による防草効果を確認することが出来た。厚い方が効果的
- ・もみ殻が新たな虫の住処になることが分かった
- ・もみ殻形状から、もみ殻単体では粘着力が弱くなる。
- ・もみ殻は数年で劣化するため、地被植物を定植し防草機能を図ることが効果的と分かった。
- ・もみ殻の下の土は、柔らかい状態が続き、草が成長しても抜き取り易いと分かった。



工夫した点

もみ殻は、3年程度で防草機能が衰えると考えられることから、劣化する前に地被植物を定植する方法を取った。

もみ殻の防草効果が分かるよう、周辺の草刈を行わず調査を行ったことにより、効果が鮮明に表現出来た。

今後の課題

地被植物(芝桜)の継続的な観察を実施したい。

もみ殻の接着強度を高める調査を実施したい。

簡易的に施工出来る方法を調査したい。(生分解性の袋などを使用)

上記のとおり、本活動は調査事業であることから、まだまだ検討する余地が沢山あり、活動目標の達成度は100%になっていないが、「もみ殻」が環境にやさしい防草材としての可能性であることが判断出来たことは大きな成果と考えます。